

平成 28 年 4 月 1 日

計算プログラム 修正点 (Ver.1.15.3 → Ver.2.0)

下記の修正を行いました。

<全体>

1. 基準値の計算を変更しました。
2. 計算結果の表示を見直しました。
3. PDF 出力の調整を行いました。
4. ヘルプ文言の調整を行いました。

<外皮関係>

5. q, m_C, m_H 値入力から、外皮面積の合計、および $U_A, \eta_{AH}, \eta_{AC}$ 値の入力へ変更しました。

<暖冷房関係>

6. 暖冷房エネルギー消費量の計算方法を変更しました。(床面積按分の方法が変更しております。詳しくは計算方法をご覧ください。)
7. ダクト式セントラル空調機の入力項目を増やし、風量補正の有無、消費電力量補正、定格能力、定格消費電力が入力できるようになりました。
8. その他の冷房設備機器を選択した際に、その他の冷房設備機器の名称の入力欄が表示されない問題を修正しました。

<給湯関係>

9. 給湯専用型のガス・石油給湯機を従来型と潜熱回収型に分け、それぞれに効率を入力しない場合のデフォルト値を設定しました。
10. 給湯設備(水栓)がない場合の選択肢を増やしました。(給湯エネルギー消費量は0となります。)併せて、浴室等がない場合の選択肢を

増やしました。(シャワー水栓・浴槽湯はり・沸かし直しに関する給湯負荷が0となります。)

11. 石油・ガス給湯機の効率の入力方法を増やしました。
12. 太陽熱給湯の集熱面積の入力方法を増やしました。
13. 給湯の熱源機専用型で電気ヒートポンプ・ガス（プロパン冷媒）が表示されない問題を修正しました。

<照明関係>

14. LED照明が評価できるようになりました。

<太陽光発電関係>

15. パワーコンディショナーの効率の入力方法を変更しました。

<コージェネレーション>

16. コージェネ機種のデフォルトを設定しました。
17. コージェネレーション設備の性能の試験方法が作成されたことを受け、パラメータを直接指定できる方法を準備しました。(ただし、試験結果から得られる仕様を直接入力するのではなく、住宅性能評価・表示協会において試験結果に関する情報を管理し、本プログラムからは型番を選択することで間接的に試験結果から得られる仕様が評価に反映するような仕組みとなっております。)

以 上